

独立行政法人科学技術振興機構の評価システム

平成16年2月18日

独立行政法人

科学技術振興機構

1. 科学技術振興機構(JST)の研究開発の特徴

新技術の創出を目指した、基礎研究から企業化開発までの一貫した研究開発を実施。

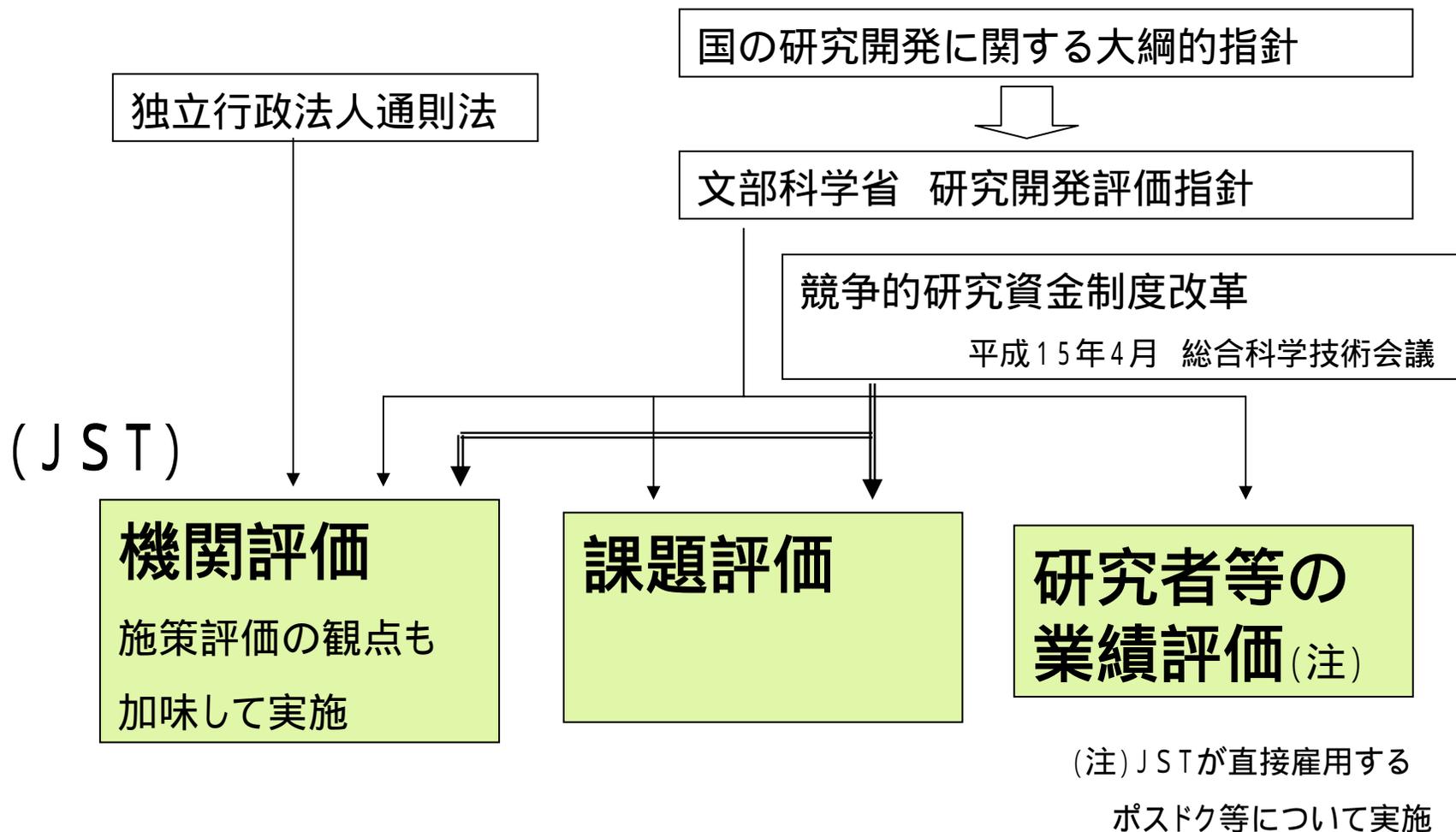
国の戦略に基づき、公募により研究課題を選定。
産学官の優れた研究者を結集し、期間を区切って研究開発を実施。

研究実施場所は、大学等の既存施設を主に活用。

平成16年度予算案	991億円(一般勘定事業費ベース)
うち、戦略的創造研究推進事業	463億円
先端計測分析技術・機器開発事業	33億円(新規)
地域結集型共同研究事業	49億円
委託開発事業	51億円

各事業ごとの予算額は現時点での推計であり、配分額は今後決定する。

2. JSTにおける評価システム

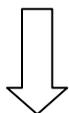


3. 研究開発課題の評価例

(戦略的創造研究推進事業の公募型研究の例)

(事前評価) (中間評価) (事後評価) (追跡調査)

文部科学省
戦略目標



研究領域

サポート

JST研究開発戦略センター

科学技術振興審議会 (JSTの諮問機関) が実施

研究総括を指名

JST
が
実施

(研究領域毎に公募)

研究課題

研究総括がアドバイザーの協力を得て実施

(参考)平成15年度

応募 2,189件

採択 107件

倍率 20.5倍

(事前評価)

優れた課題は延長

(終了の6ヵ月前までに延長を決定)

4. 大綱的指針策定以降の進展

(機関評価)

独法化にともない、独法通則法に基づく評価を受けることとなった。

(課題評価)

利害関係者の排除規程の明確化

評価結果の開示(理由付)、説明の明確化

海外専門家の評価への参画奨励(任意)

優れた課題の延長制度の明確化

(研究者等の業績評価)

JST内部規程の明確化

5. 評価実施における問題点

独立行政法人評価と研究評価の整合性

独立行政法人評価： 業務の減量、効率化、達成水準の明確化(定量目標)

基礎研究の評価： 優れた研究の発掘、研究者の育成

優れた課題の延長のための評価と事後評価の重複

1年程度の間には2回の評価を実施する必要あり。

→ 延長のための評価を行った課題については、その後の成果を追加して事後評価とする方向。

競争的研究資金のPD, PO制度の定着化

→ 大学等の研究者を2～3年のローテーションで常勤POとするのは、現状では困難な面あり。

評価にかかるコストの考え方

外部のシンクタンク等の活用、統計データ整備等のための経費必要